

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

【ChatGPTのユーザー登録を行う】①[パソコン編]

①ChatGPTのホームページ [https://chat.openai.com/]へ
②サインアップを 클릭 [「Sign up」をクリックする]

③[Googleで検索]をタップ

④Googleアカウントが表示されるので、クリックして選択する

⑤パスワード入力 (Chrome版 ログインするときと同じパスワード)

⑥「次へ」をタップ
※Step 1(Sign up)で入力済みのメールアドレスはそのまま使用する。

⑦[次へ]をタップ

⑧アカウントの名前が表示される。生年月日 (DD/MM/YYYY)を入力
例) 1983年7月4日 → 04/07/1983と入力 (1は省略して入力される)
人あしなら、[Agree]をタップ

⑨「OKay, Let's go!」をタップ

⑩ChatGPTが使えるようになります

【ログアウトされたら再帰】

①[ログイン]をタップ

②[Googleで検索] → [アカウントの選択]でログインできる

【ChatGPTアプリのユーザー登録を行う】①[スマホ編]

①QRコードを読み込んで、アプリをダウンロードする
[App Store] [Google Play store] [App Store] [Google Play store]

②[Continue with Google]をタップ

③iOSのみ: アドレスが読み取られて [続行]をタップ

④アカウントの選択 (PCと同じアカウントが望ましい) → 初期設定が可能になる

⑤パスワードの入力
⑥電話番号の入力
⑦SMSが送られて、正しいコードを入力 (⑤⑥⑦は重複する場合があります)

⑧[Continue]を押す

【ChatGPTの注意点】

①[ハルシネーション]の危険
[「ハルシネーション」]の意味
事実とは異なる内容を生み出すこと。AIが決められた思考の枠を超えていることである。
ハルシネーションは避けられないので、必ず人の目でファクトチェックする必要がある。また、正しい情報は必ずしも正確に提供される必要はない。
②[ファクトチェック] 事実の確認を行うこと
インターネットで検索したほうが最新の情報を取り出せることも多い。
[「もしもインターネット上の情報は、100%信用できるわけではない。』]
最終的には、自分や複数の人の目が重要になります。

②[個人情報や機密情報の流出]に注意
ChatGPT は学習や回答を行う上で、そのときに個人情報や機密情報を入力してしまう。データは常に匿名化されている。
企業の情報やデータベースにない限定する必要があるが、そもそも個人情報・機密情報を入力しない方がいい。
プロンプトに個人入札を含まない限り、個人情報は記憶できない。

③[信頼したプロンプトがない]確認
著作権に抵触する可能性がある。他人の著作物を学習させて得た出力の権利は使用者にはない。権利も無い。

【プロンプトで何?】

プロンプトとは
命令のこと。指示を入れます。必ずしも日本語で指示する。
【プロンプトのコツ】

①指示を明確にする
- 具体的な指示や文章で指示する
- 指示がないと回答が不明になる
- AIの文章の長さを変えてほしい
- 単語数に制限があるか? (文字の数を指定してほしい)

②広域→狭域を指定する → 精度が上がりやすくなる。
(例) 広域: 最高の内向き小説を書いて
狭域: 主人公の自伝を書いて

③指示を複数から指定する
(例) 読者層として、10歳未満の子供に
Twitterに載せたいので、140文字以内で文章を要約してほしい
(ChatGPTは最新情報ではないので、Xについても同じじゃないか?)

④[ハルシネーション]の例

AIが生成した内容が事実と異なる場合、その内容が正確であることを確認する必要があります。
ChatGPT
もしもインターネット上の情報は、100%信用できるわけではない。
最終的には、自分や複数の人の目が重要になります。

⑤[著作権] 他人の著作物を学習させて得た出力の権利は使用者にはない。権利も無い。
著作権に抵触する可能性がある。他人の著作物を学習させて得た出力の権利は使用者にはない。権利も無い。

⑥[個人情報や機密情報の流出]に注意
ChatGPT は学習や回答を行う上で、そのときに個人情報や機密情報を入力してしまう。データは常に匿名化されている。
企業の情報やデータベースにない限定する必要があるが、そもそも個人情報・機密情報を入力しない方がいい。
プロンプトに個人入札を含まない限り、個人情報は記憶できない。

⑦[信頼したプロンプトがない]確認
著作権に抵触する可能性がある。他人の著作物を学習させて得た出力の権利は使用者にはない。権利も無い。

⑧[数量] 広域のプロンプトを行う → 回答を生成することで精度を上げていく
ChatGPT は広域の内容を生成しているため、同じプロンプトに追加の指示をする
ことで、答えの精度を上げることが可能。
一度でなかなか正確な回答は得られないいくつかの質問や指示を繰り返すことで目標の
答えの精度を上げていくことができる。

【ChatGPTは「多言語」】
ChatGPT は多言語に対応している。正確な回答、知らない情報は教えて
もらおうと頑張っている。プロンプトを英語から入力、回答も英語になり、また
日本語の指示も日本語で受け取れます。

【日本語】	【英語】
「今日の天気はいいですね。明日は晴れますか?」	「今日の天気はいいですね。明日は晴れますか?」
「今日の天気はいいですね。明日は晴れますか?」	「今日の天気はいいですね。明日は晴れますか?」



<https://drive.google.com/file/d/1-KCn0thufN-4hLc-KJEFCDQaIMwMrpx4/view?usp=sharing>

ChatGPTの活用に向けたプロンプトマニュアル作成

ChatGPTが登場して以来、テキスト生成の可能性が格段に広がっている。校務にかかる様々な文章を生成し、手助けしてくれるだけでもかなりの効率化を図ることができるが、その他にも多様な使用方法が考えられる。しかし、生成AIがどんなものなのかを使い手である我々教師がある程度理解する必要がある。そのため、どんなことができるのか、また、使用目的に最適なプロンプトとはどんなものかをマニュアル化している。

現在本校では、生成AIの「仕組みを知る」→「使い方を学ぶ」→「どう使いこなすか検討する」をテーマに実践を重ねている。そして、生徒と共に生成AIについて考える授業を展開していきたい。マニュアルの詳細は、上記URLor二次元コードから御確認いただきたい。